

会 議 録（概要）

会議の名称	平成 27 年度 第 2 回 佐渡市地方創生総合戦略策定・推進本部
開催日時	平成 27 年 6 月 16 日（火） 15 時 30 分 開会 17 時 30 分 閉会
場所	金井コミュニティセンター 2 階 大会議室
議題	会議次第 1 開会 2 議事 (1)「人口ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について (2)その他 3 閉会
会議の公開・非公開	非公開
出席者	市長、副市長、政策監、教育長、議会事務局長、会計課長、総務課長、行政改革課長、危機管理主幹、財務課長、庁舎整備主幹、世界遺産推進課長、地域振興課長、交通政策課長、市民生活課長、税務課長、環境対策課長、社会福祉課長、高齢福祉課長、両津病院管理部長、農林水産課長、観光振興課長、産業振興課長、上下水道課長、監査委員事務局長、農業員会事務局長、学校教育課長、社会教育課長、消防長、事務局（総合政策課：課長、課長補佐、人口減少対策室長、人口減少対策係長、政策推進係長、人口減少対策係主任）
備考	

会議の概要（発言の要旨）

発 言 者	議 題 ・ 発 言 ・ 結 果 等
副市長	<p>2 議事</p> <p>(1) 「人口ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について</p> <p>(2) その他</p> <p>前回、5月の開催以降、外部有識者会議の意見、各部会の協議を踏まえ、総合戦略の素案及び人口ビジョンを作成した。これについては、ほぼ内容を固めたものとして25日の全員協議会に提示する予定である。</p>
事務局	<p>議事(1)について一括説明</p>
観光振興課長	<p>合計特殊出生率が2.08、社会減がゼロになれば、2020年以降は、人口が均衡するのではないかと。</p>
事務局	<p>合計特殊出生率が2.08になっても、高齢者は多いので自然減を止めることはできない。</p> <p>合計特殊出生率が2.08になっても、2060年には亡くなる方のほうが200人多いと試算している。しかし、超長期的には減少率は減ってくる。</p>
行政改革課長	<p>社会減をゼロにする目標について、目標設定が厳しいのではないかと。</p>
副市長	<p>当初は、どのような考え方で数値を設定していたのか。</p>
事務局	<p>現実的には厳しい面もあるが、人口減少対策の努力目標として、社会減ゼロを設定した。他自治体の人口ビジョンでは、2030年までに社会増減をゼロにするというものや、10年ごとに50%抑制していくもの等があるが、その中でも佐渡市の目標は高いものである。</p>
副市長	<p>第3部会では検討したのか。</p>
社会福祉課長	<p>人口ビジョンの数値から、ゼロにする必要があると考えた。</p>

副市長	部会の考えよりも人口ビジョンが厳しい数値ということか。
総務課長	具体的な事業が細かすぎて、どのKPIを達成する事業なのかわかりにくい。
政策監	社会減400人をゼロにするために、毎年200人の新しい雇用を作らなければならない。 農業振興と観光振興を中心に、受け皿を作っていくという政策になるよう考えているところ。 KPIではなくて、数値目標として考えている。
副市長	社会減ゼロでいくのか。
政策監	これまでの議論を聞いて、また最近明らかになった他自治体の人口目標の設定状況を見て、最初の段階では社会減ゼロにしなくても良いという気もしてきた。
市長	この数値目標を達成すれば、5年後に社会減がゼロになるのか。
政策監	若者向けの新しい雇用と子育て支援を充実させれば、できないことはないと考えている。 観光でいうと、データでは1万人増えると70人雇用が増える。53万人から70万人に増えれば、ある程度カバーできる。
市長	社会減をゼロにする説明は各部長が責任をもってできるのか。
行政改革課長	将来的にゼロにするのに異論はないが、すぐ5年後に成果がでるかというのは疑問である。
社会福祉課長	転入率と転出率で議論していた。差分が115人くらい。 5年後50%抑制という目標に近い。
市長	5年後に50%社会減抑制で考えられないか。 その場合、静止人口4万人の想定は変わるのか。
事務局	おそらく3万5千人くらいになる。
市長	努力目標とは言え、高く設定しすぎるのは妥当ではない。

政策監	全ての施策が完全にうまくいった場合、社会減ゼロは不可能ではないと考えているが、本日のご意見及び他市町村の事例も踏まえ、どれが適切か事務局で検討する。
交通政策課長	具体的な事業が記載されているが、予算書の名称に合わせてあるものと、事業内容をイメージして載せているものと混在している。統一的な表記として「 に関する取組」等事業概要がわかる表記が良いのではないか。
市長	その通りだ。
副市長	平成 27 年度の施策体系を基に作成したからではないか。 平成 27 年度の施策を最優先に考え記載しているのであろう。
政策監	「～取組」という記載に変更し、わかりやすく書いていく。
市長	将来、計画の見直しはするのか。
政策監	P D C A サイクルの中で必要があれば見直す。
市長	今回の戦略は、市民の総意で作るものである。 いろんな人の声を反映し、(個別に)「～事業」という名称で記載すると、まとまりがつかなくなるのではないか。ある程度まとめた上で、「～取組」とするように。 総合戦略の中に、佐渡の人口分析を載せた方が良い。佐渡の人口が減っているから、施策を行うという説明がある。 人口減少を完全に止めることはできないということを、記載しなくてよいか。
政策監	佐渡の人口減少の分析については、人口ビジョンに書いてある。しかし、資料中の人口減少と地域経済の縮小の克服に、人口ビジョンの一部のエッセンスと施策の関係を記載してわかりやすくすることは可能である。
市長	一般の市民はなぜ佐渡は人口が減っているのか知らない。 佐渡だけ人口が減少して、高齢化が進んでいると思っている人もいる。 どんな理由で人口が減っていて、そのための施策という説明が必要である。

政策監	対応します。
行政改革課長	財政計画は不要なのか。
政策監	財政計画を含む将来ビジョンが、上位計画としてあるので不要である。
市長	政策パッケージという標記が、市民にはわかりにくい。 この言葉を使わないといけないか。
政策監	使わなくてもよいので、市民にわかりやすい表現に変更する。
市長	複数の基本目標で、人材育成としてキャリア教育が出てくる。人材育成は特に重要なので、人材育成の項目でまとめた方がよいのではないか。 全部読み込めばわかるが、パッと見ではわかりにくい。 もう一点。医療の施策はどこに入っているのか。
市民生活課長	看護師確保については記載している。
市長	Ｉターン者などにとって、医療体制は最も重要なことである。 佐渡へ来るときに、病気になっても大丈夫というのがあれば安心する。 “望ましい医療体制の整備”と記載すれば、看護師確保も全部入ってくる。
教育長	以前、出生数が300人を割ると、産婦人科の先生が島内からいなくなる ということを知ったこともあり、医療に関してどのように記載されるの か気になっていた。医療体制が大事だと思っている。
総務課長	K P Iは数が多いし、わかりにくく、もっと整理した方がよいのではない か。大きなものから小さなものまであるので、統一感もない。
政策監	K P Iは、本当に必要な指標に、もう少し絞り込む。
その他	